

2019（平成31年）年度事業報告書

I. 目的

この法人は、若年労働力の減少と長寿命化さらには労働期間が長期化する社会にあって、勤労者が生涯にわたり現役で活躍するための能力開発と、高齢者が長年の経験と工夫により蓄積した潜在能力を活用できる場（ありよう）の研究とその普及をもって、勤労者の生涯現役の推進と失われつつある共同体の再建及び日本社会の活性化に寄与することを目的とする。

II. 事業

この法人は、次の事業を行う。

- (1) 生涯現役に寄与する能力開発研究と生涯にわたる能力活用の場の研究の支援を目的とする助成。
- (2) 生涯現役に寄与する能力開発と能力活用の場の普及・啓蒙を目的とする研修会の開催および情報の発信
- (3) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

III. 事業内容

1. 生涯現役につながる能力開発研究と能力活用の場の研究の支援を目的とする助成

(1) 第1期(2018年度)助成事業

- ① 第1期研究助成事業は2019年5月31日に報告書提出が締め切られ、12名の採択者全員から報告書提出がありました。
- ② 第1期研究助成報告会は2019年8月24日(土)に株式会社前川製作所本社ビル8F共創ホール第2にて開かれた。今回は助成開始後、持ち上がった計画のため任意参加でしたので第1期採択者12名のうち、5名（厚澤祐太郎氏、田中隆文氏、元濱奈穂子氏、星名由美氏、高橋麻李衣氏）の報告がありました。

(2) 第2期(2019年度)研究助成事業

第2期(2019年度)研究助成事業は、募集期間が2019年4月2日から5月7日までで、選考は同年6月3日の選考委員会で行われ、6月6日の理事会で審議・承認されました。

- ① 助成対象は「一般枠」と「特別枠」の2枠を設けました。

「一般枠」...全ての人が生涯生き生きと活躍するための生涯発達・生涯学習・生涯現役の場の、支援に関わる研究

「特別枠」...『高齢者の就労及び実践事例報告に関する研究』

例) 高齢者の就労支援、人材育成とキャリア開発、副業・兼業の在り方、定年制について 等

- ② 応募資格は「生涯発達・生涯学習・生涯現役につながる能力開発の研究者及び生涯現役を実践しているあるいは実践につながる“能力開発の場”の研究者及び実務責任者」でした。
- ③ 申請希望者と助成採択者ですが、申請希望者は一般枠 91 名、特別枠 17 名合計 108 名でした。助成採択者は一般枠 11 名、特別枠 7 名で、その 18 名に対して 840 万円の研究助成を行いました。

2. 生涯発達・生涯学習・生涯現役につながる能力開発と能力活用の場の普及・啓蒙を目的とする研修会の開催と情報の発信に関しては、シンポジウムとワークショップの開催と季刊誌プラチナニュースの発行をしております。

(1) シンポジウム（広く一般に情報発信することが主な狙いです）

- ① 東京第 5 回シンポジウムが 2019 年 6 月 5 日(水)に開かれました。『会社人生を公開しない働き方』とのテーマで法政大学石山常貴先生の基調講演があり、講演を受けた事例発表はサトーホールディング株式会社金沢春康氏と株式会社すかいらくホールディングス匂坂仁氏が行いました。その後石山先生を交えてパネルディスカッションで議論を深めおります。
- ② さらに 11 月 13(水)には公益財団法人ひろしま産業振興機構との共催で広島第 4 回シンポジウムを開催しました。

(2) ワークショップ（シンポジウム等の参加者との意見交換が主な狙いです）

2020 年 2 月 26 日(水)に「ワークショップ第 2 回東京」を開きました。テーマは「人生 100 年時代！ミドル年代で考える 20 年後の生き方・働き方」で 17 名の参加者が 3 チームに分かれてグループワークを行いました。グループ発表の後、日本大学北村勝郎教授にコメントとアドバイスをもらいました。新型コロナウイルスの騒ぎが大きくなり始めた時期にもかかわらず、積極的に参加いただいた皆様、ありがとうございました。

(3) 季刊誌プラチナニュースの発行（財団活動の情報を発信しております）

2019 年 4 月 春号(16 号、17 号)、7 月 夏号(18 号)、10 月 秋号(19 号)、
2020 年 1 月 冬号(20 号)